

一所懸命

横浜市立上の宮中学校 第3学年
平成20年7月1日発行
学年通信 第4号

熱く燃えた体育祭

3年生にとって最後の体育祭、私にとっては最初の体育祭が終了しました。どんな体育祭になるのだろうとワクワクして参加しましたが、とてもよい体育祭だったと思います。何がよかったかというと、3年生が一つひとつの競技に全力で参加していたことです。

この学年通信のタイトル「一所懸命」にこめた願いのように、私は「その場その場に命を懸ける」ことが好きです。3年生の演技を見ていて、どの競技も手を抜くことなく真剣に取り組んでいる姿勢は素晴らしかったと思います。みなさんのその姿勢は後輩の見本となることでしょう。本号ではそんな体育祭の感想を書いてみます。

<60m, 100m走, 学級対抗リレー>

走ることはスポーツの基本だといわれます。私が驚いたのは全力疾走しながらも転倒する生徒が少なかったことです。大きなケガがなかったのも、転倒がなかったからです。グラウンド整備がよいことも大きな要因ですが、それを差し引いてもみなさんの運動能力の高さを感じました。スピードもあり、力強い走りでした。

<39人40脚>

この競技は始まる前に一番心配していました。練習の時になかなか足がそろわない。すぐに列が崩れてとまってしまう。足ひもがほどけて分裂する。ゴールにたどり着くまで1分以上かかってしまうこともあり、内心「うまくいくのだろうか」と不安でした。

しかし本番は大成功。どのクラスも10秒台の好タイムで大接戦でした。成功の要因は何といてもクラスの団結力でしょう。みんなで肩を組み、「せーの」の合図で「イチニ、イチニ」の声を出していたからこそ上手にできたと思います。本番に強い3年生でした。

<大縄飛び>

この競技も団結力が問われます。一回飛ぶごとにみんなで声をあわせて「イチ、ニ、サン、シ」とかけ声が増えていく光景はとてもよかったです。どのクラスも40回以上を記録し、1年生から継続している競技の成長の証を感じました。

<綱引き>

ピストルの合図の後に綱がぴーンと張り、ジリジリと集団が動いていく。どの対戦も熱戦で僅差で勝負が決まりましたが、力が入った競技でした。

<ニューソーラン節>

修学旅行からずっと取り組んできたソーラン節。練習の時からよく声のでていましたが、本番も「ドッコイショ、ドッコイショ」の声が響きわたっていました。クラスのオリジナル演技の場面ではどのクラスも趣向を凝らしており、見ていて楽しかったです。ハッピーを着て元気よく、生き生きとグラウンドで演技する姿はとても感動的でした。

体育祭が終わると、すぐに文化祭にむけた取り組みが始まります。7日までに各クラスでは合唱コンクールの選曲を行うこととなります。自分のクラスにあった曲をみんなで選んでください。また、16日には球技大会も行われます。私は常々「自治」という言葉を口にしますが、2つの行事も体育祭と同じように、自分たちの力で企画し、自分たちの力で運営してほしいと思います。